

## 平成30年度リンゴの木プロジェクト企画書 グループA

### グループの活動内容(取り組む課題の現状・問題意識を含む)

- ・全学・各部局サイトにおいては、教員に関すること(研究・授業内容、学生への思いなど)を高校生・在校生向けに案内するコンテンツが少なく、本学の教育・研究を分かりやすく伝えることができていない。
- ・部局には余力がなく、0からコンテンツを作るのは難しい。
- ・そこで、本学の魅力をPRするために、全学サイト上に「YNU教員紹介(仮)」のページを作成・掲載する。今後は全学的にこのページを利用・活性化させることで大学広報に役立てる。

### 活動計画(どのように課題を解決するか)

- ・高校生、在学生にとって分かりやすく、参考になる教員紹介記事を作る。見やすさ、作りやすさを考慮し、フォーマット、レイアウトはある程度固定する方針。
- ・教員紹介記事はCMSで作成・掲載し、研究者総覧およびシラバスへのリンクも付ける。また、各記事を学部毎に一覧で整理したアーカイブも作成。全学サイト「横浜国立大学を知る(入試・入学カテゴリ)」にリンクを設置。
- ・若手・中堅教員を中心に、12人×5学部=60人(本学常勤教員の約1割)の原稿・画像データを集め、3～4回に分けて来年夏までに公開。
- ・コンテンツ完成後は、内容の管理、維持を図るために、各部局に対して定期的な寄稿・ページ修正協力の依頼を行うことも検討したい。

### 期待される効果、目標等

- ・高校生：興味を引く情報を提供することで受験者獲得につながる。特に、オープンキャンパスや進学相談会に来られない学生にとっては貴重な情報源となる。また、これまでの学校生活とは異なるキャンパスライフや、将来への道を想像するきっかけになる。
- ・在学生：学修モチベーションが高まる。研究・授業選択のミスマッチが減る。
- ・職員：問い合わせが減る。自部局・他部局のコンテンツ確認、比較により広報意識・意欲が高まる。教育研究において先生方の努力を知る良い機会になる。
- ・教員：自身の教育・研究をPRできる。

## 平成30年度「学びのひろば」リンゴの木プロジェクト企画書 グループB

グループの活動内容(取り組む課題の現状・問題意識を含む)

昨年度のリンゴの木プロジェクトで実施されたアンケートから、教員の職務時間割合について、思うように研究時間が取れずにその他事務手続き等に多くの時間が費やされていることが分かった。

大学全体が一体となり役割を果たしていくためには、教員が十分に研究時間を確保できる環境が必要であり、そのために事務職員の教員の業務への理解度を高めることが不可欠である。

活動計画(どのように課題を解決するか)

(仮)7~8月 数人の教員にアンケート調査・ヒアリング

9月 中間発表

10~11月 実際に研究室に伺い、事務処理業務について調査

12月 中間発表

12~1月 レポート作成・研修で配布できるよう資料化

期待される効果、目標等

教員の業務の一部を知り、教員が不便に思う事務作業の例・事案を紹介することで、より教職協働を促進することができる。

また、事務職員が教員にとって「よき理解者・相談者」となることで大学全体に一体感がうまれることが期待される。

## 平成30年度「学びのひろば」リンゴの木プロジェクト企画書 グループC

グループの活動内容(取り組む課題の現状・問題意識を含む)

「マニュアルのマニュアル作成による職員の業務効率の向上」

職員の人事異動や新規採用で業務の引き継ぎを行う際、担当者によって業務マニュアルの作成状況や様式、内容の充実度等に差があったり、煩雑であったりしている。そのため、業務内容の把握にしばしば困難が見られ、異動前後の負担が大きくなっている。そこで、当プロジェクトでマニュアル作成の手引きや雛形、いわばマニュアルのマニュアルを作成・周知することで、異動時のスムーズな引継ぎに寄与する。

活動計画(どのように課題を解決するか)

6月～8月 マニュアルのサンプル収集(学内で使用されている実際のマニュアル、一般的な業務マニュアルの作成方法)、現状の問題意識調査(こんなマニュアルは使いにくい・使いやすいなど)  
9月～11月 調査結果に基づいたマニュアル手引きの作成  
12月～ 作成したマニュアルの手引きを使用して、実際の業務マニュアルを作成、完成した手引きの周知(ウェブページに掲載等、方法を検討し実施)

期待される効果、目標等

マニュアル作成の手引きや雛形を作成・周知することによって、マニュアル作成者や業務を受け継ぐ側の負担減、業務の標準化を促すことができ、学内の業務効率化につながる。

また、本テーマは大枠として昨年のテーマ「教員の学内事務手続きにおける利便性の向上」の流れを汲んだ発想である。このリンゴの木プロジェクトの各企画が単一年度限りの成果で終わるのではなく、複数年度に渡ってテーマを引き継ぎ、成果を積み重ね充実させていくことで、より全学的に意義のあるプロジェクトになりうると考える。よって、それぞれの企画を融合させ、意味のあるプロジェクトとなるための試案としても本企画を提案したい。

## 平成30年度「学びのひろば」リンゴの木プロジェクト企画書 グループD

グループの活動内容(取り組む課題の現状・問題意識を含む)

- ・課題: 効果的な情報発信ツールがない。  
(クラウドファンディング、寄付金募集等、多くの人にPRしたい活動や、卒業生や在学学生・受験生へ情報を伝えたい場合etc. ...)
- ・取組: 横浜国立大学への親しみをもってもらうことで、Facebookのファン数(いいね数)を増加させ、大学の強力な情報発信ツールとしての確立を図る。

活動計画(どのように課題を解決するか)

- ・投稿内容を広報・渉外係に提案 → 係にて内容を確認 → 投稿 → 反応の調査
- ・反応のよい投稿内容の傾向を分析  
(投稿内容例)学食・猫・サークル・自然・季節ネタ・研究内容 etc. ...
- ・その他、必要に応じて学生、研究室、職員と連携

期待される効果、目標等

- ・効果: Facebook への投稿が、現状より多くの人に見てもらえるようになる
- ・目標: 継続性を考え、今回の調査を元に Facebook 投稿参考マニュアルを作成する